

環境基本計画

(計画期間：平成18年度～27年度)

～『ずく』を出して、環境をよくしよう～



平成18年3月

千曲市



田植えを待つ姨捨棚田の夜明け（小林友広氏撮影 平成17年・春）



厳冬期の姨捨棚田と更埴地区の夜景（小林友広氏撮影 平成18年・冬）



貴重な動植物

長野県内では絶滅したと言われていたマルミノウルシが約40年ぶりに、千曲市内で確認されました。千曲市環境基本計画策定市民委員会の自然環境部会が発足して、自然観察会を行った際に発見されました。このことが、市内だけでなく、周辺市町村で里山再評価の小さなきっかけになりました。
(平成17年4月)

千曲市の春を告げるセツブンソウ。千曲市内には何箇所か群生地がありますが、これらの保存のため市の文化財指定がすすんでいます。
(平成17年4月)





荒砥城址から見た戸倉・上山田地区の眺望



平成17年の夏、市内の神社の大木の洞で、アオバズクの幼鳥が無事に巣立ちしました。



昭和49年、日本で初めてハイイロガンが撮影されたのは、千曲市内の千曲川でした。水鳥が憩うヨシに囲まれた湿地がたくさんあったのです。今はアレチウリに覆われていますが、湿地を復元する取り組みが始まります。



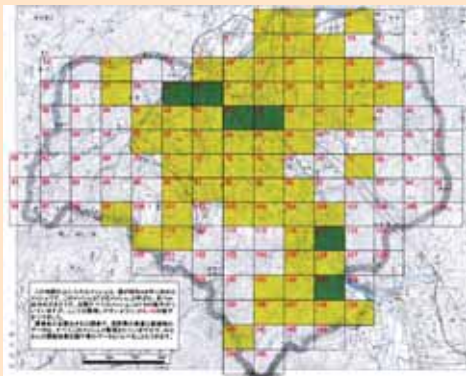
平成18年1月、千曲橋の上流に数10羽のコハクチョウが飛来して冬越しをしました。

(鳥類の写真3点は、小林直文氏撮影)

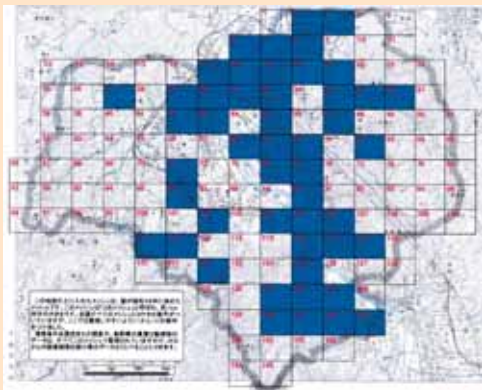
環境基本計画をみんなの手でつくろうと、平成17年5月には市体育館に小・中・高校生含む120人以上の市民が集まり、5つのテーマに分かれて千曲市の望ましい将来像を実現するための取り組みを考え、発表しました。



市民ワークショップ



ニホンアマガエルを見つけたメッシュ



カイツブリを見つけたメッシュ

こども生きもの調査

千曲市では毎年、市内の小学5年生にお願いして「生き物調査」をしています。平成17年も20種の動物、植物について夏休みの間に調査をしていただきました。

たとえば、最近では家の周りでニホンアマガエルを見なくなったと言われていますが、市街地のほぼ全域で見られました。ところが、以前は身近に見られたカイツブリは、市街地の中で減っている様子が見えます。

市街地の家の周辺に、ニホンアマガエルが繁殖する水辺が、残っていることがわかりますが、カイツブリのように移動が困難な生き物は、私達が気付かないうちに次第に姿を消しつつあります。